# 宇宙飛行士

ズガイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
宇宙飛行士

【Ｎコード】
Ｎ４３４１Ｏ

【作者名】
ズガイ

【あらすじ】
二人の固い友情が一人の宇宙飛行士を作る

# 一話

「俺、行くんだ。
ついに宇宙に……」
突然の宣言に友人の言葉に驚いた。

１３年前
あいつは、いつも言っている。宇宙に行くと。
彼はそれなりに頭がいい。学校でも上からいくつかぐらいだ。
彼は、いつも天体の本を読む。そのとなりで簡単な小説を読む。
授業の始まる五分前に教室に帰る。
その途中に彼と話す。
月の動きかたや星座のことやブラックホールの作り方などを教えてくれた。
ある日聞いてみた
「星のどこが好きなの。宇宙のどこが好きなの」
ゆっくりと聞く。
そうすると彼は口を開く。
「きらきらしてるだろ。いつかあの星に行けると思うとわくわくするんだ」
虫歯のない白い歯をみせて笑った。

## 第二話

そうか……よかったな。
ついに行けるんだな良かったな。
いつ、行くんだ？

そこまで言って止まる。
「明日なんだ。あぁーどうしよう眠れなくて困るよ」
電話の向こう側で白い歯が見えるようだった。
頑張れよ。
自分の精一杯の言葉だった。
電話が切れる。
プープーと音がなる。

１４年前
おまえ、遊ぼうぜ。
いつも通りに誘う。だが、彼は言った。
「本を買いに行くんだ。ごめんね」
裏切りだ。そう思いが駆け巡った。
そこから一週間だけ無視をした。
でも、彼は僕に話しかける。
ブラックホールがねとか、流れ星はねとか。
そう彼は宇宙も俺も捨てられなかったのだろう。
彼は一週間ずっとずーっと、話しかけてきた。

分かったよ。
それが一週間ぶりの言葉だった。

## 第三話

受話器を取る。
もう一度、もう一回話したい。指が動く。
その瞬間にプルルルとうるさく鳴り始める。

もしもし？
電話に出る。
「ごめん、また。あのさぁ、覚えてる？あの時、俺たちの出会った時」
えっーと覚えてないな。
それだけ言った。
「あの時は……」

二十年前
俺は小2だった。
そこで、あいつと出会った。
机にうつ伏せに寝ている。うおい、おーい。寝てるならいっか。
歩きだそうとすると返事がきた。
「なに？」
これ興味ないか。
手渡すと興味深げに言った。
「なんて読むの？これ」
宇宙って言うんだぜ。

これが出会いだった。

そのまま電話は切れてしまった。

次の日
飛び立つまで、あと一時間。
じっと、テレビを見つめる。
インタビューがあって、いろいろ話している。
あと五分。携帯電話をテレビにしてマンションの屋上に行く。

あと１０、９、８……息を吸う。
「ガンバレよ～～～！！！！」
力一杯に叫ぶ。

聞こえたかな。
そう思っていると、微かにだが聞こえた

ガンバルよ！！

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4341o/

宇宙飛行士

2010年10月29日18時24分発行